

日野市立教育センター一報

教育センターだより



第42号 平成29年12月15日発行

日野市立教育センター

○ 日野市立教育センター

191-0042

東京都日野市程久保 550 番地

代表電話 042-592-0505

Fax 042-592-1148

午前 8 時 30 分から午後 5 時 15 分

URL: www.hino-tky.ed.jp/center/

○ わかば教室

〒191-0042

東京都日野市程久保 550 番地

直通電話 042-592-0863

午前 8 時 45 分から午後 4 時

I 調査研究部

調査研究部では、日野市の当面する教育課題である「理科教育」と「郷土教育」の推進研究及び、日野市教育委員会事業「ひのっ子教育21開発委員会研究」の支援を関係機関のご協力の下、進めています。以下、実施概要をお知らせします。

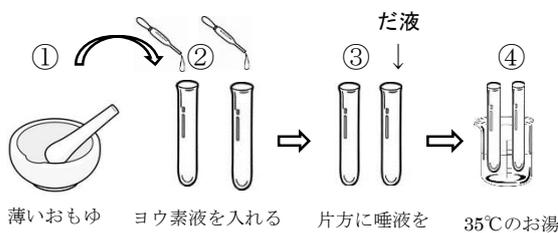
1 理科教育推進の研究 (理科教育推進研究委員会)

教科等教育係

ひのっ子が主体となる理科授業を目指して

日々の授業が「ひのっ子が主体となる理科授業」となるために、まず先生方を支える必要があります。理科の授業力向上のための支援として、理科実験のアイデアを紹介してきました。

(1) 食べたものの消化 (唾液によるデンプンの消化実験)



～「唾液を試験管に入れることに抵抗は？」～

市販の胃腸薬(消化薬)を使うと、唾液を使わずにできます。唾液の消化酵素であるアミラーゼは、胃腸薬(消化薬)の主成分なのです。つまり、唾液に代わってデンプンを消化してくれるということです。

(2) 昼間観察できる月カレンダー

～適期を選んで観察させよう～

9月		月(昼間の観察)	
1	金		
2	土		
3	日		
4	月		
5	火		
6	水		○
7	木		
8	金		
9	土		
10	日		
11	月	↑ 10:07 月入	
12	火	11:13 月入	
13	水	12:17 月入	⊙
14	木	13:19 月入	
15	金	↓ 14:17 月入	

←→ 午前中に西～南の空に見える。

～以下、略します。

(3) メダカの産卵床を作る

～ストレスを与えずに、採卵できます～



材料は緩衝材とナイロンたわし



卵はジッパー付き袋で観察

(4) 使ってみませんか「温度計ホルダー」



「物の溶け方」などで、温度を測定しながらの作業を、容易に安全に行えます。見本を小学校各校に一つずつ配布しました。

他、「台風について知ろう」「金属の熱膨張実験」も…。来春には「教育センター春の花図鑑」を配布予定です。

2 郷土教育推進研究（郷土教育推進研究委員会）

ふるさと教育係

1 三沢地域のフィールドワーク

今年は七生地域の副読本の執筆に向けて、戦国時代の「三沢十騎衆」で知られる三沢地域のフィールドワークを行いました。

この地域の地形は、湯沢、中沢、小沢の三つの沢に代表されます。



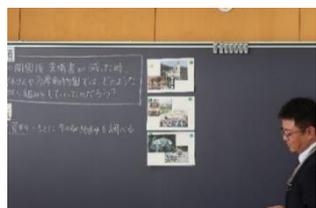
この地図のように西側の湯沢を下り三沢神社に寄り中沢を登りました。そして、丸山と呼ばれ、かつて金子屋敷跡であったと言われる高台に登り、小沢（こざわ）を日野第八小学校方面に下りました。

この地域は豊かな水が流れ出すところであり、金田公園のあたりは豊かな米どころであったといわれています。



写真は昔、三沢村の中心にあった医王寺の石仏です。台座には医王寺の名が残されています。

2 実践授業（1）4年社会科 「郷土の開発につくす ～多摩動物公園の設置・発展に尽力した林寿郎（初代園長）～」 夢が丘小学校 永吉智洋 教諭



今では多摩地域のシンボリック的存在である多摩動物公園は、学区に隣接し、夢が丘小学校では毎年全校遠足を実施する身近な場所です。しかし、誘致した七生村や京王電鉄の人々の熱意や努力はあまり知られていません。また、開園初日には25万人もあった入園者も、その後、交通の便の悪さなどで減少しました。本授業

では、入場者のグラフの変化や資料から、林寿郎を中心とした多摩動物公園の人達の工夫や努力(無柵放養式やライオンバスの導入、昆虫館の設置など)について考えさせました。

3 実践授業（2）4年社会科「平山地区の特色あるまちづくり～平山遺跡～」 滝合小学校 関根夕紀 教諭

滝合小学校の周辺である平山地区は、土地区画整理事業の真っ最中であり、近くにありながら子供たちの目に触れずに遺跡や遺物が埋め戻されていく。昔の遺跡や遺物を子供たちの身近に感じさせるために、本物の縄文土器に直接触れさせると共に日野市教育委員会生涯学習課文化財係宮本涼子学芸員より土器の意味について学びました。土器の大きさへの驚きや、土器の出



3 ひのっ子教育21開発委員会

「特別の教科 道徳」を踏まえた「日野の道徳」創造プロジェクト

基礎調査研究係

研究主題

**児童・生徒がよりよく生きる心を養う日野市の道徳教育の創造
～「特別の教科 道徳」の視点に立った道徳教育の構築と指導方法の工夫～**

21世紀を切り開くひのっ子のための道徳教育の在り方を、平成28・29年度の2年間にわたって研究してきました。講師は、明星大学教育学部教授 小林 幹夫先生です。本開発委員会では、研究の成果を市内の全小・中学校に提供し、小学校は平成30年度から、中学校は平成31年度から新たに開始される「特別の教科 道徳（道徳科）」の充実に貢献したいと考えています。

1 道徳科の目標を視点として

道徳科の目標は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」となっています。（ ）は中学校

この目標を達成するための計画並びに指導と評価はいかにあればよいかを追究しています。

2 29年度の授業研究

- (1) 平成29年6月22日（木） 授業者；安田 尚民 主幹教諭
潤徳小学校2年 教材名；「ぐみの木と小鳥」
主題；友達への思いやり（親切、思いやり）
- (2) 平成29年9月21日（木） 授業者；伊藤 邦昭 主任教諭
仲田小学校4年 教材名；「ばんざい大きな花まる」
主題；もっと素晴らしい自分（個性の伸長）
- (3) 平成29年10月19日（木） 授業者；島方 健太 教諭
日野第八小学校5年 教材名；「銀のしょく台」
主題；広い心をもって（相互理解、寛容）
- (4) 平成29年11月14日（火） 授業者；塚田 未来 教諭
教材名；「日野産リンゴができるまで」【開発委員会作成】
主題；日野を大切にする思い（伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度）
- (5) 平成29年12月1日（金） 授業者；遠藤 顕宏 教諭
大坂上中学校1年
教材名；「新ちゃんの流しびな」 主題；生命の尊さ



「ぐみの木と小鳥」 潤徳小2年

滝合小学校5年



「日野産リンゴができるまで」
滝合小5年

3 研究の成果

- 登場人物の心情理解に終始する授業ではなく、道徳的価値を追求したり、児童・生徒が自分を見つめたりする授業を構想することができた。
- 道徳的価値の理解のためには、話し合いの後で考えの再構築を図るとよいことが分かった。
- 全体計画及び別業と年間指導計画のモデルの作成、日野の郷土教材の自作を行った。

4 研究報告会 平成30年2月22日（木） 会場；南平小学校

Ⅱ 研修部

教職員研修係

研修部では、日野市教育委員会学校課が計画した研修事業を支援する業務を行っています。

(1) 若手教員育成研修(1・2・3年次)

教育センターの担当所員は若手教員のいる学校を訪問し、授業観察及び指導を行っています。

1年次教員の授業観察では、主な指導の観点は、学習指導案が適切に作成されているか、授業での説明・発問・板書が分かりやすいか、児童・生徒と良好なコミュニケーションがとれているかなどです。担当所員は、よかった点や課題を示し、次の授業に向けた改善策を話し合いながら指導に当たっています。2学期の2回目の授業観察では、校内におけるOJTによる指導もあり、落ち着きや安定感が感じられ、授業の流れも一段と円滑になってきています。

2年次教員の授業観察では、授業のねらいが明確で、授業の流れに変化をつけ、山場をしっかりと押さえた授業展開が行えるよう具体的に指導しています。

3年次教員の授業観察では、これまでの課題を踏まえ、対話的で、深く考えさせる実践的な授業を目指し、外部との連携や学校の組織的な動きにも触れながら指導にあたっています。



(2) 夏季全体研修会

7月21日、日野市民会館大ホールで日野市教育委員会夏季教員研修の全体研修会が行われました。教育センター所員は全体研修会の開催に向け、日野市教育委員会と協力して、立看板の準備、受付名簿の作成、資料の準備、及び当日の受付を行う等の支援を行いました。

(3) 夏季に実施される半日単位の若手教員育成研修(2・3年次)

8月24日に日野第一中学校を会場として2・3年次の若手教員育成研修会が行われました。

2年次教員(午前)・・・「授業リフレクション」

一学期に実践した事例(授業)を各自発表し、授業展開の方法や教材教具の工夫等についてグループに分かれ協議を行いました。担当所員は、グループ協議に参加し、発表事例の授業や児童・生徒理解の悩み等について指導助言と励ましを行いました。



3年次教員(午後)・・・「日野市発達・教育支援センターの業務や子ども家庭支援センターの業務などについての講義、保護者対応についての講義と演習」
演習ではグループに分かれ、保護者対応のロールプレイに臨みました。担当所員は保護者として、3年次教員は担任の先生となり、実際面での保護者対応における細かい留意点や配慮すべきことなどを助言しました。

(4) 教育課題研修会

夏季休業中に実施された、郷土教育、外国語活動、食育研修、人権教育、夏季休業中公開研修会、特別支援教育、理科実技、動物の見方、昆虫のスキルアップ、英語教育推進リーダー還元、がん教育に関する研修などの研修会の受講申込みの取りまとめ、受付名簿の作成、さらに当日の受付業務などの支援業務を研修部の担当所員が行いました。

Ⅲ 相談部

学校生活相談係【適応指導教室「わかば教室」】

教育センターの相談部は、学校生活相談係が「適応指導教室（わかば教室）」の運営と「学校生活相談（主に長期欠席・不登校児童・生徒について）」を行っています。

1 学校生活相談

— 不登校児童・生徒と適応指導教室「わかば教室」—

学校生活相談係は様々（心理的・情緒的等）な要因によって、不登校や登校しぶり等の長期欠席の状況にある児童・生徒を適応指導教室「わかば教室」（以下「わかば教室」という。）で受け入れ、学習や生活の支援及び指導を行っています。

学校生活相談係の役割は、通室生が在籍校で健康で明るく、一人一人が安全で安心して意欲的に学習や行事などに取り組むことができるようになること目標として、「わかば教室」での生活を通して安心して日常の生活がおくれるように、時間をかけて丁寧に支援・指導し、学校に復帰できるようにすることだと考えています。

そのために「わかば教室」では、通室者の心のケア（精神的安定）、学力（学習力）向上、体力増進、社会性の育成等を図るため、一人一人に応じた支援・指導を心掛けています。また、相談活動（定期的・随時）を充実させ、SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）や行事〔下記（2）〕を行う等、人間関係を深め、社会的な実践力を培い、児童生徒の活力向上（心と身体のエネルギーを高める）を図り、学校復帰を目指した活動に取り組んでいます。

そのためには、児童・生徒が抱えている様々な課題に対応するために学校・保護者・関係機関と連携していくことが欠かせないと考えています。

（1）学校との連携

「わかば教室」では、市内各小・中学校と連携し、通室する児童・生徒の生活改善と学校復帰に取り組んでいます。そのために各学期に「適応指導教室連絡会」を設け、通室している児童生徒が在籍する学校の管理職や担任及びコーディネーターの先生との面談・情報交換を実施しています。その情報を共有することで、支援・指導方法を検討・改善しています。また年間に1～2回、市内の全小・中学校を登校支援コーディネーターと訪問し、「わかば教室」の周知と情報交換を行っています。

（2）「わかば教室」の行事について

「わかば教室」では、児童・生徒の社会性や集団適応能力の育成のために、学期ごとに様々な行事を行っています。遠足、お茶会、図書館訪問、老人ホーム訪問、社会科見学、学習発表会（音楽会）、誕生日会、収穫祭（調理実習）、スポーツ大会など、児童・生徒の自主、自立、社会性を育むことを意識しながら計画・実施しています。

一
学期
収穫
祭（調
理
実
習）



お
茶
会（に
じり
口か
ら
茶
室
に
入
り
ま
す）



(3) 適応指導教室「わかば教室」通室の状況（体験通室者含む）

平成 28 年度	5 月 1 日	小学生	7 人	中学生	1 9 人	合計	2 6 人
	11 月 1 日	小学生	1 1 人	中学生	3 3 人	合計	4 4 人
	3 月 25 日	小学生	1 7 人	中学生	4 6 人	合計	6 3 人
平成 29 年度	5 月 1 日	小学生	7 人	中学生	1 9 人	合計	2 6 人
	11 月 1 日	小学生	1 4 人	中学生	4 7 人	合計	6 1 人

日野市でも不登校児童・生徒が毎年出現しています。その中で「わかば教室」に通室することで、心と身体のエネルギーを高め、学校に復帰する児童・生徒がいます。また、高校へ進学した生徒も元気に通学することができています。

学期・学年の変わり目は学校に復帰できる良い機会です。機会を逃さないように、児童生徒の小さな変容を大切に見取り、生きる力を育み、学校復帰に繋がられるように保護者や学校及び関係諸機関と連携を図っていききたいと思います。

2 「eラーニング」を活用した学習支援

わかば教室内登校支援員

不登校対応の観点から ICT 活用教育推進室と連携して、不登校児童生徒に「インタラクティブスタディ（日野市版）」を活用した eラーニングで、小学生・中学生ともパソコン室で個別に週 2 回下記学習日に学習支援を行っています。

eラーニングは「わかば教室」に通室している児童・生徒を対象に実施しています。しかし、長期欠席状態にあり、家から出ることによる不安を感じていたり、他の人と関わりを持つことがつらい児童生徒には、特別の時程（下記※）が用意されています。なお、特別な時程をご希望の場合には eラーニング担当者にご相談（要申込み〔わかば教室内 登校支援員電話 042-592-0863〕）ください。

なお、平成 29 年度から eラーニング学習をするためには在籍校で発行される ID（ログイン名）とパスワードが必要となります。平成 29 年度 eラーニングは第 2 学期から本格的に稼働しました。〔詳しくは、eラーニング担当者にお尋ねください。〕

eラーニング 学 習 日			
小学生	火曜日のタイム 1	木曜日のタイム 1	2 階パソコン室
中学生	火曜日のタイム 2	木曜日のタイム 2	2 階パソコン室
※ 特別の時程（要相談）	水曜日の 14 時～16 時	3 階 eラーニング室又は 2 階パソコン室	
学 習 で き る 教 科			
小学生	国語	社会 算数 理科	英語活動
中学生	国語	社会 数学 理科	英語

「わかば教室」では、eラーニング担当者（登校支援員）が一人一人の能力に応じた個別の学習課題への取り組みを支援しています。同時に、学生ボランティアの支援もあります。

児童・生徒は、つまづきのある学習や過去に取り組むことができなかつた内容を基礎から学習することができます。また、学習内容は学年にかかわらず自分の進度に応じて選択して学習することができるので、学力への不安が軽減されています。このことで、学習したいという意欲が芽生え、学校復帰へのきっかけや進学希望の一因ともなっています。

また、eラーニングの学習状況は在籍校でも確認することができるようになっています。

3 不登校改善へ向けての取組み

(1) 適応状況調査について

不登校の改善をめざす「日野サンライズプロジェクト」に基づき、各小中学校では適応状況調査が作成され、教育委員会及び教育センター登校支援コーディネーターに報告されます。

登校支援コーディネーターは、適応状況調査を集約して、定例生活指導主任研修会をはじめ、日野市適応指導教室（わかば教室）、日野市発達・教育支援センター（エール）等へ情報を提供し、関係機関同士の連携・協力に活用されるよう図っています。

(2) 9月時点での不登校者数の比較

①平成28年9月時点と平成29年9月時点の比較

	H28.9	H29.9	比較
小学生	34名	52名	約1.5倍増
中学生	96名	125名	約1.3倍増

②平成29年度夏休み前(7月)と夏休み後(9月)の変化

	夏休み前	夏休み後	変化
小学生	36名	52名	約1.4倍増
中学生	105名	125名	約1.2倍増

■不登校者数は小、中ともに増加傾向にある。

①不登校者の人数は中学生が多いが、増加率は小学生が高い。

②夏休み後の増加率は小学生の方が高い。不登校の低年齢化も視野に入れた対応がますます必要になってくる。

(3) 教育センターが考える不登校増加の3つの要因

- ①少子化、個別生活化の影響により、人間関係をうまく築くことができず、集団生活を苦手とする子どもが増えている。
- ②家庭環境の変化により、子どもが基本的な生活習慣を身につけられない。
- ③無理して登校させなくてもよい、という意識をもつ保護者の増加

(4) 不登校の未然防止に向けて

平成28年度100日以上欠席者の不登校の原因は、

- | | |
|-----------------------|------------------|
| ①生活リズムの乱れ、体調不良等（約50%） | ②集団生活への不適應（約25%） |
| ③家庭環境の問題（約20%） | ④発達障害に係わること（約5%） |

という状況でした。これは、上記「不登校増加の3つの要因」の背景ともいえます。不登校の未然防止に向けて、学校による早期発見・早期対応により欠席の長期化を防いだ事例が増えてきています。一方、学校だけでは困難なケースも年々増えてきています。今後、上記「不登校増加の3つの要因」を踏まえて、学校が主体性をもって、専門性をそれぞれに有する各関係機関との連携による取組を一層進めていく必要があります。

(5) 適応状況調査に記載された連携の事例

- ・ 学校からのかかわりは拒否されてしまうので、子ども家庭支援センターよりの提案でSSW要請の許可を得た。（欠席59日）
- ・ わかば教室に通うようになってから精神的に安定してきている。社会科見学にも参加した。（欠席40日）
- ・ 引き続き保護者が付き添って車で登校している。母親がSCと面談、継続していく予定。SSWが継続して家庭訪問を行っている。（欠席14日）
- ・ 11月からの登校状況によって、両親との面談を設ける予定。母親には少年センターにゲームのやり方等の指導法を教えてもらうため相談しに行ってもらおう。（欠席26日）